

—はぼたん—

はぼたん

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病害虫名												
露地								● は種	▲ 定植			■ 収穫
萎黄病								——	——	——		
黒腐病								——	——	——		
コナガ								——	——	——		
ヨトウムシ								——	——	——		
アオムシ								——	——	——		

萎黄病

防除方法

- 1 あぶらな科の連作を避ける。
- 2 発病株を速やかに処分する。
- 3 土壌のpHを7前後に高くすることで、発病を抑える。
- 4 苗床、本田を土壌消毒する。(XⅢ土壌消毒 参照)

・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>

【花き類・観葉植物 20～30kg/10a は種または植付前/1回】

黒腐病

留意事項

- 1 種子・土壌伝染する。
- 2 9～10月の多雨時に発生が多い。

防除方法

- 1 健全な種子、種子消毒済の種子を用いる。
- 2 苗床、本ぽでは水はけを良くし、マルチなどで土の跳ね上がりを防止する。
頭上かん水を避ける。
- 3 発病株・被害葉はほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【800倍 発病初期/8回】

コナガ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスケード乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 発生初期／3回】
 - ・ [ノーモルト乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 発生初期／2回】
 - ・ [エスマルクDF](#) < 1 1 A > 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期／- 】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期／5回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍 発生初期／2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) < UN > 【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1000倍 発生初期／4回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) < 2 8 > 【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2000倍 発生初期／4回】

アオムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000倍 発生初期／6回】
 - ・ [オルトラン水和剤](#) < 1 B > 【花き類・観葉植物 1000倍 発生初期／5回】

注 1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注 2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。